

カーボンレポート

東京都低炭素ビル実績表示

この書面は、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例に基づく「地球温暖化対策報告書」(都内の中小規模事業所を対象)により東京都に報告したCO₂排出量の実績等を、地球温暖化対策指針に基づいて表示するものです。

No.A1480-0512

報告書提出
事業者名

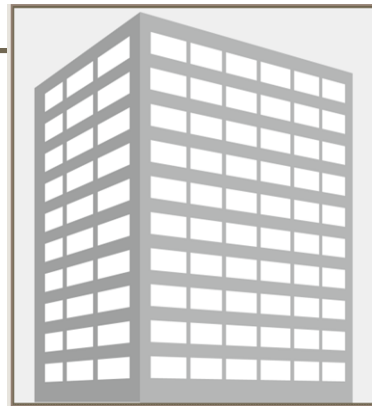
みずほ信託銀行株式会社

事業所名

いちご大塚ビル

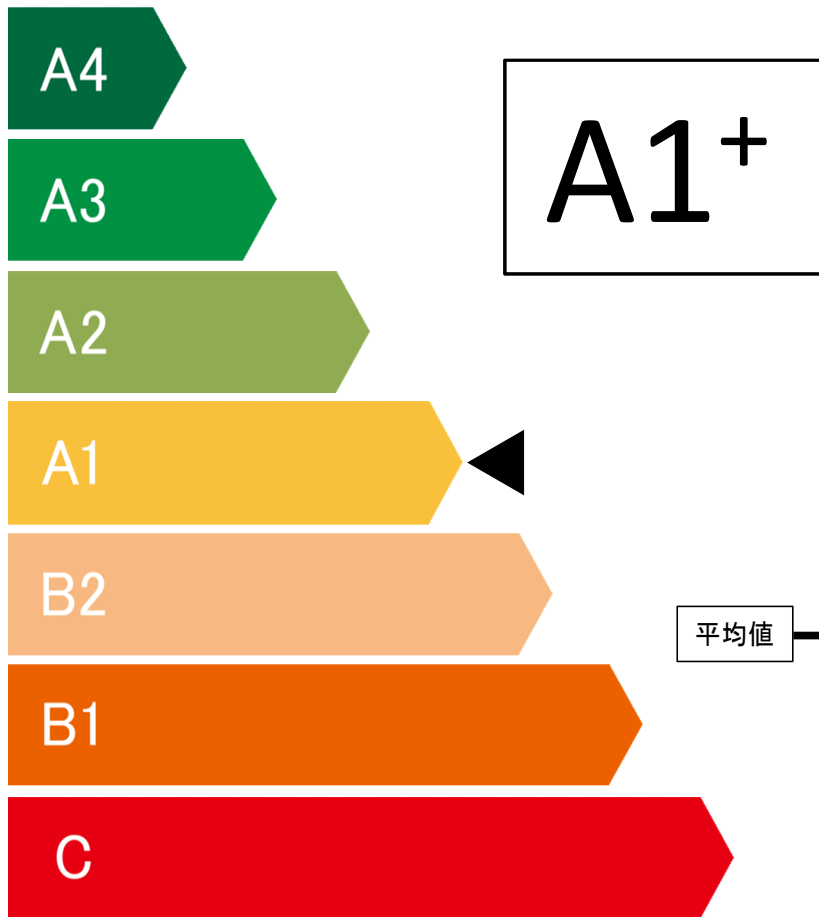
住 所

豊島区南大塚3-46-3



実績年度	年間CO ₂ 排出量	延床面積	CO ₂ 排出原単位 (延床面積当たりの年間CO ₂ 排出量)	主たる用途
2020年	304 t	4573.06 m ²	66.2 kg-CO ₂ /m ²	事務所

ベンチマーク区分:テナントビル(オフィス系、中規模)



ベンチマーク レンジ	CO ₂ 排出原単位 (kg-CO ₂ /m ²)の範囲
A4	~ 41.6
A3+	41.6 ~ 45.3
A3	45.3 ~ 49.1
A3-	49.1 ~ 52.9
A2+	52.9 ~ 56.7
A2	56.7 ~ 60.4
A2-	60.4 ~ 64.2
A1+	64.2 ~ 68.0
A1	68.0 ~ 71.8
A1-	71.8 ~ 75.5
B2+	75.5 ~ 79.3
B2	79.3 ~ 83.1
B2-	83.1 ~ 86.9
B1	86.9 ~ 113.3
C	113.3 ~

※ベンチマークは、都内の中小規模事業所のCO₂排出水準(CO₂排出原単位の水準)を15段階で示す指標です。(詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)を参照)

※CO₂排出水準は、ビル側の地球温暖化の対策の推進状況だけでなく、ビルの稼働状況や入居者の取組等の影響を含むものです。

※本書面の記載内容は、第三者の検証を受けたものとは限りません。また、報告書提出事業者の事業所範囲についての内容であるため、区分別所有等の場合、基本的にビル全体の内容と一致しません。共有の場合は、持分割合に応じたものとなっています。

◆ 地球温暖化対策の実施状況

	重点対策	その他対策
	対策名	対策名
組織体制の整備	温暖化対策推進担当の配置	地球温暖化対策の方針等の設定
	具体的な取組目標と内容の設定	都などの無料の相談機関の利用
	取組状況の点検体制の構築	テナントへの温暖化対策協力依頼 使用量に応じた料金体系等の採用
エネルギー等の使用状況の把握	自ら入手可能な情報に基づく把握	過去のデータによる傾向の把握
	関連他者からの情報を加えて把握 エネルギー使用量の前年度比較	
運用対策	空室・不在時等のこまめな消灯	
	冷暖房温度を都の推奨値へ変更	
	空室・不在時等の空調停止	
	事務用機器を省エネモードに設定	
	共用部照明のフロアごとの管理	
設備保守対策	空調フィルターの清掃・点検	換気フィルターの清掃・点検 その他設備の定期的な保守・点検
設備導入対策	高効率照明ランプの採用(屋内)	全熱交換器の導入
	高効率照明器具の採用(屋内)	エレベータのインバータ制御
	高効率パッケージの採用	進相コンデンサ等による力率改善

上記は、本事業所が実績年度に実施した対策です。

◆ 補足説明(自由記入)

◆ 注記

ビルのCO₂排出原単位(延床面積当りの年間CO₂排出量)は、ビルの断熱性能、設備・機器のエネルギー効率及び運用・保守管理状況を、総合的に示すビルの省エネルギー指標です。東京都が提供するベンチマークは、中小ビルのCO₂排出原単位の平均値を用途別・規模別に示しており、その平均値から個々のビルのCO₂排出原単位がどの程度離れているかをみることで、当該ビルの低炭素レベル(省エネ性能)を評価することができます。

なお、ビルのCO₂排出原単位は、空室率、駐車場や電算室の有無、稼働時間、入居テナントの種類や入居テナントのエネルギーの使い方等によっても影響を受けます。ベンチマークは、こうした様々な要因も包含した平均値を示していますが、省エネの取組以外の要因が著しく大きい等の場合、評価者は、これらの要因がどの程度、CO₂排出原単位に影響を与えているかを考慮する必要があります。詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)をご参照ください。